

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200908		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム たんぼぼ		
所在地	佐世保市石坂町177-29		
自己評価作成日	令和元年6月22日	評価結果市町村受理日	令和元年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が共同生活をするに当たり、職員がそれを援助するという、グループホーム本来の姿を実現するように努めている。
 ・掃除、洗濯、調理等の一部や買物の同行等について、その方の状態に合わせてできることを分担していただき、役割を持って生活されるように援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム玄関から入ると、職員の写真とともにホームの一員となった猫の写真が訪問者を出迎えてくれる。ホームでは法人の運営理念「もっと優しく、もっと温かく…」をモットーとし、ホーム独自の理念である「笑顔いっぱい、幸せいっぱいありがとう」をフロアに掲げ、食事前に行う嚙下体操の後には職員と入居者として唱和しホーム全体で共有している。運営推進会議には地域の方や行政関係者のほかに外部事業所の施設長がメンバーに入り、会議で得た様々な事例や情報をホーム運営に活かしている。防災への取り組みについては、今回職員4名及び入居者8名で実際に自然災害を想定した避難場所での宿泊を体験し、様々な課題点を抽出することができている。この体験をもとに管理者を中心に実態に即した防災マニュアルの作成に取り掛かっている。管理者は家族や職員からの相談などにも気さくに応じるとともに働きやすい職場環境となるよう努めており、職員間の協力関係も構築している。また、法人全体としてもグループホーム施設長会議が立ち上がり、他ホームの事例などをホーム運営に活かしていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ゆうあいホームたんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流の際、社会の中で生活をしている事を感じていただくよう働きかけている。理念は、毎日声に出し職員だけでなく利用者様も共有している。	法人の運営理念「もっと優しく、もっと温かく…」をモットーとし、ホーム独自の理念である「笑顔いっぱい、幸せいっぱいありがとう」をフロアに掲げ、食事前に行う嚙下体操の後には職員と入居者とで唱和しホーム全体で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の公民館の活動参加を継続、町内敬老会の参加は一人ずつではあるが参加している。七夕にはホームへ足を運んで頂くよう近所の子供や、お母様に呼びかけ交流を図った。	ホームでは月に1回地域の公民館で開催されるいきいきサロンや町内の敬老会に参加し、地域との交流を図っている。また、ホーム行事の際には近隣住民へ声を掛けたり地域清掃には職員が参加したりするなど、地域に溶け込み繋がりを持つよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ地域の方々との関係ができ、今後は施設見学をして頂く話をしている。施設についての質問などある時は、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設関係の方が、推進会議のメンバーに増えたので介護の中でのサービス向上に結びつける事ができている。	運営推進会議には市の長寿社会課担当者、地域の民生委員、外部事業所の施設長、ホーム職員等で構成されている。外部の事業所の施設長が会議メンバーに入ることにより様々な事例や情報を入手することができ、それをホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿社会課の方が、運営推進会議に参加されているので情報をとりあえる。地域包括の方から問い合わせなどあるので協力出来る事には対応させていただいている。	運営推進会議に市の長寿社会課担当者の参加があり、会議を通じて各種情報の入手やホームの情報提供を行うなどのほか、認知症デーのピラ啓発に協力するなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議の中で話し合いを持つようにしている。最近では、小さな事柄でもご本人にとって拘束にあたらぬのか？と、皆で検討するようになっていく。	現在、ホームで身体拘束が必要な入居者はおらず、センサーの使用も行っていない。ホームでは3ヶ月毎に身体拘束適正化検討委員会を開催し、状況については運営推進会議の際にも報告している。職員は法人内部研修や県社会福祉協議会等の外部研修に参加し、身体拘束のない介護の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、虐待の委員会があり会議の中でも気になることは話合うようにしている。よいケアが提供できるようアンガーマネージメントの研修への参加もおこなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年から、日常生活自立支援事業の活用をする方が2名。現在も申請中の方もいる。内容については会議中に話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得して頂けるよう話していたが解約の際に親族の中で意見の違いがあり、説明していた事がよく伝わっていないことがあった。それぞれに連絡を入れるよう今後改善する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、話す時間がもてるようにしている。ご家族によっては話しやすい職員に意見を言われることもあり、情報を共有し対応するようにしています。ご意見箱を設置していますがそこに要望等入っていることはないです。	ホームでは、家族が面会に訪れた際に家族からの意見を聴くよう対応している。家族からの要望等は申し送りノートに記入し、職員間で情報共有を図っている。	現在、副主任が入居者の様子を撮影し、ホーム便りの発行も検討している。今後、ホーム便りを通じてホームの情報を発信し、家族との信頼関係を積極的に築いていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議に参加するので、提案、意見を言える環境にある。組織の環境が整い、内容によって相談など話しやすい環境がある。	管理者は職員の要望や提案を聞き、必要に応じて法人本部へ意見を挙げている。また、働きやすい職場環境となるよう努めており、職員間の協力関係も構築している。また、法人全体としてもグループホーム施設長会議が立ち上がり、他ホームの事例などをホーム運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、給料の見直しなどあり又、ホームでの取り組みの努力など理解し評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行われており、外部研修の案内をホームに情報提供して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の繋がりがあり、他のホームで集まり会議をする機会もある。運営推進会議で他のホームへ参加するようになったので活動や取り組みなど刺激になる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、ご本人、ご家族共に話す時間をとり電話での連絡をいつでも取れるようにし不安なくサービスの利用ができるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで困ったことや、これからの不安を傾聴しご家族との関係づくりに努めている。ご本人はもちろん、ご家族の支援をすることも常々代表が言われている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、ご家族の状況を判断しその時に必要なサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの中では、出来る事の参加をさせていただいているのでご利用者の中には、ここに仕事に来ていると思われている人もいらっしゃる。職員も、ご利用者に支えられていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援の時に、ご家族にも毎回声をかけ一緒に支援して頂くようにしている。ご家族の状況によっては、外出、受診、外泊などの協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望や、ご家族の聞き取りでこれまでの関係を継続できるよう支援させていただいている。病院の先生とのつながりは安心感を持たれる。美容室では、ご近所さんと話をされてくることもある。	ホームの七夕祭りへ地域の子どもたちが来訪したり関連事業所で行う夏祭りへ入居者が参加したりするほか、入居者の友人の方がホームへ立ち寄りたり、馴染みの美容室へ入居者と出向いたりするなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。また、親族の冠婚葬祭の際には帰省の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を把握した上でご利用者同士の支え合いができるようにしているので、自然と、関わり合いができています。時により、職員が間に入り円滑にいくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のホームに行かれた方、病院に入院された方など契約終了後も様子を見に行くようにしている。退所後の方の、葬儀への参列もさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えられる方の希望や意向は、日々の会話から把握し、情報を共有するようにしている。失語症の方が、把握出来にくい表情やジェスチャーで本人の訴えを少しでも理解するようにしている。	職員は日頃から入居者とコミュニケーションを図り、本人からの要望や意向などは他の職員とも情報共有するよう努めている。失語症の方にはジェスチャーを行うなど、本人の様子を見ながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や以前の担当の方からの聞き取りを行い把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんどの方に目が届くので、過ごし方、心身状態、有する力は状況が変わってきたのも把握できている。1ユニットなので、職員の情報共有がしやすい環境にある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、福祉用具、訪問看護の方々へ相談することもある。又、訪問看護は毎週こられるのでアドバイスを頂く機会も多い。プランに入れてなくても日々のケアの中に反映している事もある。	ホームでは入居者及び家族の要望や担当職員の意見を聞き、管理者兼ケアマネジャーがケアプランを立案している。入居者の日々の状態を把握し、残存機能を活かしたケアプランとなるよう努めている。	日々の介護記録について、職員はケアプランに基づく実践状況を意識し、ケアマネジャーによる再アセスメントの際においても参考にできるよう入居者の状態変化や気づき、チームケアによる支援に必要な情報源などケアプランに沿った介護記録が残せるよう今後の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき、工夫している事があるが個別の記録が細かく書けていないので、以前からの進歩がない。申し送りノートは情報共有に活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせられる事は、他からの協力を得ながら対応するようにしている。身体のレベル低下で入浴が不安や、ストレスになった方には施設の移動の検討をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員、ご家族での支援を行っている。本が好きな方はご家族にお願いされ購入したり、職員が買い物に同行したり、外食にお連れしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皆さん、希望通りのかかりつけ医にかかられており、特別に無い方は協力医へ紹介させていただいている。先生方は、相談等のしやすい方ばかりなのでご本人だけでなく職員も、安心できる。	入居者のかかりつけ医は入居前から関係のある医療機関、または特別に希望がない場合はホームの協力医療機関による受診にて対応している。ホームでは入居者の状態に応じて受診の支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の日に、聞きたいこと伝えたいことは職員間でその日出勤する職員に伝え、当日、伝えてもらっている。看護師さんも必要に応じてドクターとの連携をとっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況の判断を病院と連携しながら連携室の担当の方と連絡を取り合い、退院後の事まで検討し安心して入院治療が出来るようにしている。早期に退院できる時は、すぐに対応するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族とは元気な時に話をするよう心掛けています。ホームで出来る事は説明しており、環境や医療の必要性に応じての移動の旨も伝えています。	終末期となった場合の対応について、ホームでは入居時に家族へ説明している。終末期となった場合は、基本的に医療機関等への移行となっている。尚、看取りに関する指針を整備しており、職員体制が充実した際には支援を行う意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での緊急時の研修へ順番で参加してもらうようにし、法人内でも研修をして頂き急変時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災については、年2回の訓練を行い毎日の点検を行っている。消防署でおこなわれる訓練にも順番で参加している。災害時の避難訓練ができていない。	ホームでは定期的に避難訓練を実施しており、消防署からの指導と点検業者による消防設備の点検が行われている。防災への取り組みについては、今回職員4名及び入居者8名で実際に自然災害を想定した避難場所での宿泊を体験し、様々な課題点を抽出することができている。この体験をもとに管理者を中心に実態に即した防災マニュアルの作成に取り掛かっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	代表が、尊厳を大切に敬う気持ちで接する事を言われています。職員同士で気になる言動がある時は、注意するようにしています。汚染のある時は、部屋に誘導し対応し恥ずかしい思いをさせないなど気がけるようにしています。	職員は入居者を人生の先輩であると意識し、尊厳を持った関わりに努めている。また、法人の接遇委員会を通じた内部研修へ参加したり、日々の支援の中で気になる言動があった際には管理者が注意したりするなどし、入居者を尊重した対応に配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話せる方もいますが、そうでない方には職員のほうから思いを聞き出すよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出に関しては、なかなか対応できないところがあるが、ホームの中では起床の時間や、食事、入浴など個人のペースが違う時は、本人本位に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で、髪につけるものや洋服など欲しいものがある方には、気に入るものを買ってもらったり、アクセサリーに興味がある方は家族とも協力しておしゃれをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに合わせ、おかずを別メニューで作ることある。外出支援の時、ご利用者の希望からお好み焼きを食べに行くことなども行った。食事準備のお手伝いをしてもらったり、下膳のお手伝いなど一緒に出来る方は積極的に行われている。	ホームでは食事担当の職員が手づくりで調理し、冷蔵庫内の食材を見て献立を立案している。入居時に入居者の嗜好について調査し、入居後も本人の嗜好を聴きながら食事を提供するとともに、嗜好に応じて個別に別メニューで作ることもある。入居者は食事準備や下膳を行うなど、残存能力を活かしながら食事を楽しんでいる様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量も、個人差があるので体重測定や血液検査等で十分なのか確認している。水分を摂る量が少ない方には声かけたり、好きな飲み物を出しできるだけとってもらっている。今は、ポカリを毎日1度は出し熱中症の予防も考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ準備を行い介助や声かけの必要な人には、職員がついて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方には、排泄の時間を見て昼、夜、声をかけたり尿取りの確認をするようにしている。	ホームでは入居者の排泄に関する情報を記録し、時間帯やその方のパターンに合わせてトイレ誘導を行っている。職員は排泄の無理強いはせず声の掛け方や時間を置くなどし、できるだけ排泄が自立できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂る事、適度に体を動かす事、最近では、ヨーグルトを飲む事で下剤がいなくなった人もいます。食事は、野菜を多く使うなど心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴は行いペースはある程度決めているが一番風呂が好きなお人には、一番に入ってもらったりその方に合わせたお湯加減や時間のとり方をしている。	ホームでは毎日入浴できるよう支援がなされている。入浴の順番やシャワー浴など入浴方法についても検討しながら支援している。職員は季節に応じて菖蒲湯や入浴剤などを使用し、入居者の楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で、休みたい時は部屋に戻り休んでいただいている。空調も気持ちよく休んで頂けるよう管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に、薬の説明書を綴じていつでも見れるようにしており、頓服で出されるお薬は申し送りや薬箱に貼り把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リーダー的なことをして頂く人や、好きなこと出来る事を役割としてやっていただき自信をつけて頂いたり、人に喜ばれる場面をつくっている。気分転換に外で食事をしたり外出支援はご利用者からの発言を取り入れて実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内の、敬老会への参加や毎月の、公民館のサロンへの参加をさせていただいたり、法人の職員の協力でバスを出してもらい花見や外食に行っている。バスで、出かける時は家族の参加もお願いしている。	近隣への散歩等についてはホーム前面の道路が勾配のある坂であるため、入居者の状態を考慮し職員と一緒に買い物に行くなどの対応を行っている。ホームでは時季の花見や外食、ドライブなど外出の機会を設けており、今後は更に増やしていきたい意向にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、お金を渡し自分でお買い物をさせていただきようとしている。手元には、少ない金額を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度、対応している。暑中見舞いや、年賀状は一言でもご自分で書いていただき送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	耳の遠い方が、テレビの音量を高くされると聞こえる人にはうるさく、集音器をご家族にお願いして使用してもらった。光がまぶしい所に日よけの為にカレンダーを下げたりしている。クーラーの風が苦手な人はあたらぬ所に場所を変えてもらうように配慮している。	ホーム玄関から入ると、職員の写真とともにホームの一員となった猫の写真が訪問者を出迎えてくれる。日光が強く差し込むところにはカレンダーを掲示し遮断しており、それと同時に季節や日付が分かるよう見当識への配慮にも繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中のソファに座る際の組み合わせは相性を考え配置している。一人になりたい時は、居室に戻りくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話で、必要なものを最低限もってこられている。お仏壇を持ち込まれている人もいる。部屋が殺風景な方々には造花を飾ったり写真を貼らせていただいている。	居室への持ち込み品について、ホームでは火気類や刃物などの危険物以外の制限は特になく、入居者にとっての馴染みの物の持ち込みがなされている。家族の写真や本人の趣味の物、仏壇を持ち込んで居室が窺われた。	日中使用しないポータブルトイレについて、入居者に使い勝手を伺うなどして本人本位に検討しながら、未使用時には目隠し等をするなどして居心地良い居室となるよう配慮することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の見えやすい位置に時計を置き時間の把握をさせていただきようとした。階段は、転倒防止の為に子供の柵をつけている(2階のみ)		